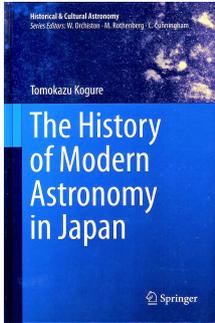


## 書評

## The History of Modern Astronomy in Japan

小暮智一 著

富田晃彦（和歌山大学）



Springer / 295 ページ

洋書定価約 20000 円

2021 年 3 月発行

ハードカバー版

ISBN: 978-3-030-57060-6

小暮智一氏による、日本の天文学の発展を振り返る興味深い新たな本が出版された。今回紹介のこの書は「天文教育」での連載記事の発展版のさらに発展版といえるものである。

小暮氏は「天文教育」2009年1月号から2012年9月号に連続して23回、「恒星天文学の源流」と題した連載記事を著していた[1]。タイトルが恒星天文学となっているが、銀河天文学の源流をも含んだものとなっていた。その連載記事を拡充し、さらに、日本の天文学の発展について章を新たに立てて書き加え、2015年に京都大学出版会より「現代天文学史：天体物理学の源流と開拓者たち」を著した。この著書について、綾仁一哉氏による書評がある[2]。

日本の天文学の発展について、上記の著書のひとつの章をさらに一冊の本のレベルにまで拡充させたものが、今回紹介の本である。天文教育や普及、そして天文と社会との関りについて広くかつ深く書かれており、日本の天文学の誇りとすべき特徴がここからもわかる。また、綾仁一哉氏の書評[2]にもあるように、プロとアマチュアの連携により天文学の発展があるということが、日本そして世界の中で見ることができる。

2021年に、縁あって小暮氏のご自宅にお邪魔する機会が何度かあった。ご高齢でいらっ

しやるが、多くの書物に囲まれた質素な書齋で、深い思索と執筆に今なお取り組んでいらっしゃる情熱的な姿を拝見し、たいへん感銘を受けた。またその際、日本の天文学の発展と共に、世界、特にアジアでの天文学の発展に日本どう貢献してきたかのお話をうかがう機会にも恵まれた。

この本は英文で書かれているが、人名をはじめとして固有名詞の多くに日本語表記が付記され、日本語を母語とする者にも読みやすいものとなっている。各国固有の天文学史は、それぞれの国の言語でよく研究されているだろうが、言語の壁を越えて研究成果を交流させることは簡単ではないという問題がある。この著書は日本での天文学の発展とその特徴を世界に広く紹介する窓口となるであろう。

## 参考

- [1] 連載の第一回目は：「恒星天文学の源流【1】恒星分光の開幕期 その1」小暮智一、天文教育, Vol.21, No.1（2009年1月号）, p.43-51  
連載の最終回は：「恒星天文学の源流【23：最終回】星と銀河 その6～銀河系と宇宙～」小暮智一、天文教育, Vol.21, No.1（2009年1月号）, p.46-56
- [2] 「アマチュアが拓いた現代天文学」綾仁一哉、天文教育 Vol.28, No.2（2016年3月号）, p.90

富田晃彦